ルル 追加 HO E ツバメとともに、彼の母のもとへと急ぐ。

日が暮れるころにはイルム、そして彼の家である薬屋クロラントへ たどり着いた。

彼の父に事情を話し、三人で寝室へ入る。

彼女の状態は聞いていた以上に悪く、私は万能薬を取り出した。

飲ませると、みるみる顔色が良くなっていく。

目を見張る彼の父に私は言った。

どうかこのことは秘密にしてほしいと。

ツバメも後押しをしてくれて、父親はゆっくりとうなずいた。

ふたりでリーファに戻ろうとしたけれど、雪が降りはじめていた。 すると、ツバメの父が今日は泊まっていきなさいと言ってくれて、 私は空き部屋に通された。

ツバメも久しぶりに自室で過ごすことができるだろうと――頭は、自然に彼のことを考えはじめる。

騙されていたこと、傷つかなかったわけじゃない。

それでも、ツバメは踏みとどまってくれた。

私に全てを話してくれた。

だから――許してもいいと、そう思えた。

でもきっと、それだけが理由じゃない。

胸の奥にずっとある、淡く灯った気持ちがあったからこそ、私は。 私は、この気持ちを――。

## 選択肢

1.気持ちを胸の内にしまう2.気持ちを伝える

シーンを進めるとココフォリア上に選択肢が表示されるので、 自身の選択を左クリックしてください。